

平成 20 年度 普及に移す農業技術（第 2 回）

[分類] 普及技術

[成果名] エンダイブ軟腐病防除にスターナ水和剤が有効である

[要約] エンダイブ軟腐病防除にスターナ水和剤の 2,000 倍液を散布する。防除は発病前からの予防的散布とする。

[担当] 農業技術課 専門技術員 農業総合試験場 環境保全部

[部会] 病虫部会

1 背景・ねらい

エンダイブは松本地域、諏訪地域等で栽培され、サラダ等の食材として有望視されている作物である。軟白栽培では葉先をテープやゴムバンドで結束するが、株内部が過湿状態となり軟腐病が発生しやすい。現状、登録薬剤が極めて少なく防除に苦慮している。そこで、農薬適用拡大を図るため、平成 18 年にエンダイブ軟腐病に対するスターナ水和剤の防除効果及びエンダイブに対する薬害について試験を行った。本剤は平成 20 年にエンダイブ軟腐病に適用拡大となったので、今回普及に移す。

2 成果の内容・特徴

(1) エンダイブ軟腐病防除にスターナ水和剤の 2,000 倍液を散布する。

農薬登録内容

スターナ水和剤

[一般名及び成分含有量] オキシリニック酸 20.0%

[毒性] 人畜毒性：普通物 [魚毒性] A類

[対象作物に対する適用登録状況（平成 21 年 2 月 4 日現在 JPP ネット確認）]

作物名	適用病 害虫	希釈 倍数	10a 当 散布量	使用時期	使用回数	使用 方法	オキシリニック酸を 含む農薬の使用回数
エンダイブ	軟腐病	2,000 倍	-	収穫 14 日 前まで	2 回まで	散布	2 回まで

3 利用上の留意点

(1) 防除は発病前からの予防的散布とする。

(2) 目に対して弱い刺激性があるので、目に入らないように注意する。

4 対象範囲

県下全域

5 具体的データ

(1) 平成 18 年に塩尻市洗馬及び茅野市玉川において、エンダイブ軟腐病に対するスターナ水和剤の防除効果及び薬害試験を実施した。

ア 塩尻市洗馬における試験結果

定植後、試験開始前に各区で活着不良等による株落ちが数株見られたが、試験には影響がなかったものと考える。対象病害は少発生であった。スターナ水和剤 2,000 倍散布区は、軟腐病の発病株が見られず、Z ボルドー 500 倍散布区と同等の防除効果が認められた。薬害は認められなかった（表 1）。

Z ボルドー散布区では、1 回目の散布で葉に細かい褐色の斑点が現れ、軽い生育遅延が見られたが、実害はなかった。

イ 茅野市玉川における試験結果

対象病害の発生は非常に少ない中での試験となったが、無散布区においては軟腐病の発病株が見られたのに対し、スターナ水和剤 2,000 倍散布区では発病株が見られず、Z ボルドー 500 倍散布区と同等の防除効果があったと判断した。薬害は認められなかった(表 2)。

Z ボルドー散布区では、塩尻市洗馬の試験と同様の薬害症状が見られたが、実害はなかった。

表 1 エンダイブ軟腐病に対するスターナ水和剤の防除効果(平成 18 年、塩尻市洗馬)

供試薬剤	希釈倍数	調査株数	発病株数	発病株率 (%)	防除価	薬害
スターナ水和剤	2,000 倍	39.0	0.0	0.0	100	なし
Z ボルドー	500 倍	37.0	0.0	0.0	100	あり
無散布	-	36.0	2.3	6.4		

注) 値は 3 反復の平均値。防除価は発病株率の平均から算出した。

) Z ボルドー区の薬害は、定植後間もない苗に散布した時(6 月 21 日散布)に、葉に細かい褐色の斑点が現れたが、その後の新葉には見られず、実害はなかった。また、他の 2 区に比べてやや生育が遅延した。

試験場所: 塩尻市洗馬農家ほ場 品種: デラックス F 播種: 5 月 15 日 定植: 6 月 5 日
区制・面積: 1 区 6.6 m² (1.35m × 4.9m) 42 株、3 反復 対象病害の発生状況: 少発生
薬剤散布: 平成 18 年 6 月 21 日、6 月 27 日、7 月 6 日に電動式噴霧器を用いて 10 a 当たり 300 ㍓散布した。展着剤は加用しなかった。

調査方法: 最終散布 5 日後の 7 月 11 日に全株について発病株数を調査した。薬害の有無については随時観察して判定した。

注意: 本試験は防除効果を判定するため散布回数は適用の使用回数を超えた。

表 2 エンダイブ軟腐病に対するスターナ水和剤の防除効果(平成 18 年、茅野市玉川)

供試薬剤	希釈倍数	調査株数	発病株数	発病株率 (%)	防除価	薬害
スターナ水和剤	2,000 倍	39.0	0.0	0.0	100	なし
Z ボルドー	500 倍	39.0	0.0	0.0	100	あり
無散布	-	39.0	1.0	2.6		

注) 値は 3 反復の平均値。防除価は発病株率の平均から算出した。

) Z ボルドー区の薬害は、定植後間もない苗に散布した時(6 月 27 日散布)に、葉に細かい褐色の斑点が現れたが、その後の新葉には見られず、実害はなかった。また、他の 2 区に比べてやや生育が遅延した。

試験場所: 茅野市玉川農家ほ場 品種: デラックス K 播種: 5 月 21 日 定植: 6 月 16 日
区制・面積: 1 区 3.9 m² (1m × 3.9m) 39 株、3 反復 対象病害の発生状況: 極少発生
薬剤散布: 平成 18 年 6 月 27 日、7 月 6 日、7 月 13 日、7 月 20 日に電動式噴霧器を用いて 10 a 当たり 300 ㍓を散布した。展着剤は加用しなかった。

調査方法: 最終散布 6 日後の 7 月 26 日に全株について発病株数を調査した。薬害の有無については随時観察して判定した。

注意: 本試験は防除効果を判定するため散布回数は適用の使用回数を超えた。

6 その他特記事項

[公 開] 制限なし

[課題名、研究機関、予算区分]

農薬安全使用等総合推進事業、平成 18 年(2006 年) 国圃(農業技術課)